

平櫛田中コレクション—つくる・みる・あつめる—

Hirakushi Denchu Collection: The Hands and Eyes of the Sculptor

平成26(2014)年9月23日-10月19日

東京藝術大学大学美術館 展示室2

1	好日(平櫛田中像) Good Day (Statue of Hirakushi Denchu)	金子篤司 KANEKO, Atsushi	昭和39年 (1964) 木	高170.5cm
2	源頼朝像 Statue of Minamoto no Yoritomo	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和9年 (1934) 木 彩色	総高35.0cm 像高30.5cm
3	或日の少女 A Girl on One Day	橋本平八 HASHIMOTO, Heihachi	昭和9年 (1934) 木 彩色	高61.0cm
4	出家 Entering Priesthood	辻晋堂 TSUJI, Shindo	昭和14年 (1939) 木	高77.9cm
5	牝牛 Cow	佐藤朝山 SATO, Chozan	大正15年 (1926) 木	高21.0cm
6	牛 Cow	橋本平八 HASHIMOTO, Heihachi	昭和9年 (1934) 木	高13.6cm
7	猫 Cat	橋本平八 HASHIMOTO, Heihachi	大正13年 (1924) ブロンズ	高33.2cm
8	ねこ Cat	辻晋堂 TSUJI, Shindo	昭和31年 (1956) 陶彫	高26.7cm
9	燈下萬葉(良寛和尚) Priest Ryokan Reading <i>Man'yo-shu</i>	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和23年 (1948) 木 彩色	総高55.5cm 像高50.4cm
10	平安老母 The Aged Mother of Heian (Portrait of Okada Ume of Heiando)	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和11年 (1936) 木 彩色	高34.7cm
11	烏有先生像 Statue of Uyu-sensei	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和16年 (1941) 木 彩色	高104.9cm

12	西王母 The Queen Mother of the West	橋本平八 HASHIMOTO, Heihachi	昭和5年 (1930) 木	高36.3cm
13	久米舞 Kumemai Dance	竹内久一 TAKENOUCHI, Kyuichi	明治〜大正時代 木 彩色	総高33.0cm 像高26.8cm
14	鏡獅子 The Kabuki Dance "Kagamijishi"	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和15年 (1940) 木 彩色	総高58.0cm 像高50.4cm
15	鏡獅子試作 Study for the Kabuki Dance "Kagamijishi"	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和13年 (1938) 木 彩色	総高105.5cm 像高95.0cm
16	龍文鎮 Paperweight in Shape of Dragon	香取秀真 KATORI, Hotsuma	青銅 鑄造 鍍金	長45.2cm 高8.9cm
17	煙草盆 Tobacco Tray	小川破笠(伝) attributed to OGAWA, Haritsu	江戸時代 桑製 拭漆 金・銀 高蒔絵 螺鈿鉛板・ 陶磁器・水晶・玉・金 具嵌 灰入(金胎, 朱・黒・ 潤漆塗分) 沈金箱	縦18.2cm 横19.8cm 高30.9cm
18	灰袋子 Hui-tai-tzu, the Taoist Immortal	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	大正2年 (1913) 木 彩色	高64.0cm
19	三井高福像 Statue of Mitsui Takayoshi	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和12年 (1937) 木 彩色	総高112.0cm 像高102.5cm
20	一休行乞 Priest Ikkyu Going about Asking for Alms	平櫛田中 HIRAKUSHI, Denchu	昭和19年 (1944) 木 彩色	高65.9cm
※	秋草図屏風 Flower Plants of Autumn	尾形光琳(伝) attributed to OGATA, Korin	木 彩色	縦15.5cm 横355.2cm

※秋草図屏風は、田中コレクションに含まれません。

平櫛田中 [明治 5 (1872) – 昭和 54 (1979) 年]
岡山県生まれ。大阪で人形師中谷省古に木彫の基礎を学ぶ。上京後、高村光雲を訪ね、米原雲海、山崎朝雲に兄事し近代的な木彫を習う。大正 3 (1914) 年、第 1 回再興院展に《禾山笑》などを出品し、院展同人となる。昭和 19 (1944) 年、東京美術学校教授となり後進を指導。その後も《鏡獅子》(国立劇場にて展示中) など木彫の制作を続けた。

金子篤司 [大正 11 (1922) – 平成 14 (2002) 年]
山口県生まれ。東京藝術大学彫刻科に入学し、平櫛田中に師事。在学中に田中の指示、監修のもと、重要文化財の模刻を行っている。卒業後は日展、日彫展への出品を重ねる。仏教にまつわる主題を中心に、彩色木彫を多く手がけた。塑像による作品も多く、幅の広い作風を展開した。

橋本平八 [明治 30 (1897) – 昭和 10 (1935) 年]
三重県に生まれ、郷里の三宅正直に木彫の指導を受けた後、佐藤朝山に師事した。昭和 2 (1927) 年、日本美術院同人となる。田中とは直接の師弟関係になかったが、田中は高く評価し、生前より作品を購入していた。没後、実弟で前衛詩人の北園克衛の編集により『純粹彫刻論』(昭森社、同 17 年) が刊行された際は、田中が序文を書いた。

佐藤朝山 [明治 21 (1888) – 昭和 38 (1963) 年]
福島県の代々宮彫師を務めた家に生まれ、幼少より彫技を学んだ。明治 37 (1904) 年に上京して山崎朝雲に師事し、大正 3 (1914) 年に日本美術院の同人となった。同 11 年に渡仏し、ブールデルに師事した。後に師朝雲と不和になったことから、師からもらった朝山の号を返上し、本名の清蔵、続いて玄々と名乗った。

辻晋堂 [明治 43 (1910) – 昭和 56 (1981) 年]
鳥取に生まれ、昭和 6 (1931) 年に上京して素描を学ぶが、同 8 年に《千家元麿氏像》を第 20 回院展に出品し、木彫に転じる。戦後は制作の大半を木彫から抽象的な形態をもつ陶彫へと移行させた。田中が好んだ言葉「いまやらねばいつできる わしがやらねばたれがやる」は辻の工房に掲げられた文言で、感銘を受けた田中も使うようになった。

竹内久一 [安政 4 (1857) – 大正 5 (1916) 年]
江戸に生まれ、牙彫家として独立していたが、明治 13 (1880) 年に観古美術会で古仏に感銘を受け、木彫を志す。同 21 年より東京美術学校に勤め、文展では審査員を務めた。同 26 年のシカゴ万博には大作《伎芸天》(本学所蔵) を出品し、好評を得た。田中は「一に久一」と語ったことがあり、明治以降の彫刻家の中で高く評価していた。

小川破笠 [寛文 3 (1663) – 延享 4 (1747) 年]
笠翁とも号す。松尾芭蕉の門に入り、俳句を残している。のち工芸家として津軽藩に召しかかえられ、藩主津軽信寿、書家後藤仲龍らと硯箱を合作する。他にも、象嵌を施した蒔絵の工芸品を制作し、その独自の技法は破笠細工などと呼ばれ好評を博した。諸芸に秀でており、版画や日本画も制作したとされる。

香取秀真 [明治 7 (1874) – 昭和 29 (1954) 年]
千葉県生まれ。明治 25 (1892) 年、東京美術学校に入学し鑄金を学ぶ。33 年、パリ万博に出品し、銀賞牌を受ける。36 年より、美校の鑄金史の授業を担当。翌年には彫金史を兼任。また、『日本金工史』など多くの研究書を残した。帝展に美術工芸部が設置されると、その展覧会委員を務める。昭和 28 (1953) 年、工芸家として初の文化勲章を受章。